

国際商工会議所、「トルコにおける模倣品および海賊版の経済的および社会的影響」と題する報告書を公表

2011年9月21日
JETRO デュッセルドルフ事務所

国際商工会議所（ICC: International Chamber of Commerce）は、「トルコにおける模倣品および海賊版の経済的および社会的影響（The economic and social impacts of counterfeiting and piracy in Turkey）」と題する2011年9月付の報告書を公表した。

本報告書は、ICCの模倣品および海賊版対策のためのイニシアチブであるBASCAP（Business Action to Stop Counterfeiting and Piracy）からの委託を受けたフロンティア・エコノミックスが作成したもの。EU国境における模倣品の差止においては、トルコが侵害品の出所のトップ5にランクインしており、また、近年はデジタルの海賊版も急速に増加していることを背景に、トルコにおける模倣品および海賊版による影響の大きさを分析している。本報告書の概要は次のとおり。

<トルコにおける模倣品および海賊版の規模>

分析結果によれば、トルコにおける模倣品および海賊版の経済価値の総額は年間106億ドルにも上り、トルコのGDPの1%を越えている。年間35～44億ドルの模倣品がトルコへ輸入され国内で消費されており、国内で製造され消費されたのは26～52億ドルであった。

<トルコにおける政府の税収と雇用への影響>

模倣品および海賊版の製造と消費は、企業に悪影響を与えるだけでなく、直接的な社会的代償をもたらすものであり、政府の税収に年間24億ドルの損失を与え、また、年間13万4000人の雇用を喪失させている。

<広範な経済的影響>

偽造医薬品や模倣アルコール・食品等による消費者への健康被害への懸念もあり、残念なことに毎年多くの人々が死亡している。死亡および身体障害によって消費者に与える損害は年間3.4億ドルに相当する（これには治療費用は含まれない）。

— 報告書の本文は、以下参照 —

[The economic and social impact of counterfeiting and piracy in Turkey \(PDF\)](#)

— 報告書の要旨は、以下参照 —

[Executive Summary \(PDF\)](#)

(以上)